

FT「4・8」マニュアル

2024/05/29

- [1 目次 \(このページ\)](#)
- [2 起動、終了、概要](#)
- [3 オプション設定画面表示例](#)
- [4 JTDX等からのログデータ自動取込](#)
- [5 FT8画面表示例](#)
- [6 BGALOG連携のためのJTDX、WSJT-X設定例](#)
- [7 JTDX、UDP設定 \(TCPからUDPへ変更\)](#)
- [8 JTDX、WSJT-X \(異なるパソコン間転送、自宅内に2台のPCがある場合の設定\)](#)
- [9 eQSL、CCとの連携](#)
- [10 JTDX\(WSJT-X\)からのLOG取込に失敗した場合](#)
- [11 JTDX、WSJT-XのLOGマージ方法](#)
- [12 JTDX、WSJT-Xのデータの場所、FT8カラー等の設定例と表示例 \(P-21関連\)](#)
- [13 自分のIPアドレスを調べる方法](#)
- [14 デジタルモードの内訳確認 \(検索後の確認\) \(バンド別モード別からの検索\)](#)
- [15 デコード時、検索時のDXCC内訳確認 \(デコードデータの内容確認\)](#)
- [16 FT8を使用するためのデータベースの準備](#)
- [17 JTDX画面表示例](#)
- [18 JTDXカラー設定例](#)
- [19 JTDX等のデータ内検索 \(デコードデータ、LOGデータ、等々・・・\)](#)
- [20 快適に使用するために](#)
- [21 FT画面オプション設定](#)
- [22 オプション画面 \(JTDX等のデコードファイル直接検索\)](#)
- [23 デコードデータ簡易検索 \(メイン画面への取り込み、プリフィックス検索\)](#)
- [24 簡易ヘルプ表示 \(FT画面の活用\)](#)
- [25 JTDXのカラー設定](#)
- [26 過去の交信状況 \(ft画面説明\)](#)
- [27 FT画面表示上の注意事項](#)
- [28 FTデコード取込画面1、2 \(22年12月、24年05月変更\)](#)

データ内容と追従する必要があるためそのシーンの画面が取れないことから実際の画面と一部異なる部分がありますが了承願います。
サブ画面についてはスピードを優先するため2019年からシンプルに変更しました。
FT8はFT「4・8」に読み替えてください。

左の項目クリックで
そのページへ移動します。

このページへは [目次へ移動]
で戻ります。

② FT「4・8」マニュアル (JTDX、WSJTでのみ取込が出来ます。)

B G A L O Gでは「Jアラート」のような橋渡しのソフトは不要です。

T C P、U D P 経由で取り込む内容

- FT8でLOGに入力した「コールサイン、R S T」 + 「検索項目」の取込
過去の取込データ等の内容から、
①コールサイン、②モード、③R S T、④プリフィックス、⑤D X 番号、⑥氏名、⑦住所、⑧ゾーン、⑨G L、
- 15秒毎の「デコードデータ」 + 「過去の交信状況」 + 「カントリー名」 + 「D X C C 状況」を取り込み
(FT4は7.5秒)

FT画面起動 (図のいずれかが起動中はテルネットは動作中となります。)

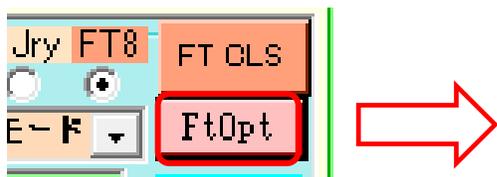


FT画面終了

FT画面 ⇒ 「FT終了」でFT画面を終了します。
または、FT画面の閉じる「X」ボタンで終了します。



③ FTオプション設定画面



FT オプション画面

JTDX、WSJT LOG未登録チェック実施 & 自動取込 =JTDX =WSJT

FT LOGデータ共有 (BGALOGのFTデータをJTDX、WSJTと共有)

① FT データ作成 JTDX、WSJT マージ ログデータ「wsjtx_log.adi」の作成

② JTDX C:\Users\ja5bg\AppData\Local\JTDX\wsjtx_log.adi

② WSJT C:\Users\ja5bg\AppData\Local\WSJT-X\wsjtx_log.adi

③ 環境登録 & 作成DT上書 上記作成DT & アドレスを登録
上記アドレス ⇒ 環境ファイルへ登録
作成データ ⇒ JTDX、WSJT

この画面の他、メイン画面に「⑩ ファイル内容確認取込」があります。

LOTWチェック =実施(★注意:CPUへの負荷大★) =未実施

FT画面フォント設定 = 14 (標準14ポイント)

FT マニュアル

FT8画面表示位置初期化

エンティティ等表示 =非表示 =する
 表示内容 =エンティティ =プリフィックス

テルネット画面起動時にFT8画面自動起動

FT8ディスプレイ色反転

UDPソースDT取込(分析用) JASBGA専用

未登録ファイル選択 下記以外のファイル選択 or 削除

検索対象場所 = C:\Users\ja5bg\AppData\Local\JTDX\202107 ALL, TXT

検索文字 = + Enter = 検索実行

過去交信状況表示

: 過去の交信状況を「表示⇔非表示」の切替

1回 :14.CW < L>

エンティティ等表示

: エンティティ、プリフィックス共に「表示⇔非表示」の切替

表示内容

: 表示の場合のエンティティ⇔プリフィックスの切替

エンティティ	→	0845 BG8NML JA4CES R+08 QR 14. JAPAN
		0845 JA1NUX K9GL R-19 QR 14. USA
プリフィックス	→	0900 CQ N2BJ EN61 QR 14. K
		0900 CQ JA7FLI QM09 QR 14. JA

QR BY
R CE
QR HA
QR YB
-R LU
QR YB
QB IA

==== Time = 57 : 15 ===== Frg = 10 =====*

CQ JA7FLK QM08 QR JA (0) :

WD4GBW R7GH LN05 QR UA1 (0) :

C03DK UA10MS LP31 QR L UA1 (1) C

* K5MI IK4LZH JN54 QR L I (5) F F

CQ RK4FF LQ25 QR L UA1 (4)-D- FFFF

5B4AMX (5B、CYPRUS)

「Q」 = 年間OSO交信済、「T」 = FT8では交信済未回収、

「-」 = 他の周波数で交信済 (当該周波数は未交信)

「-D-」 = 「4回交信」その局とは4回交信しており10MHzのFT8で交信済 (デュープ)

「:」 そのバンドで未交信

④ LOGデータ取込

JTDX等でQSO成立時に「Log QSO」画面が表示されます。
単に「OK」ボタンクリックのみ（**B G A LOG側は未処理**）で全ての処理が完了、または、ワーク欄に取り込まれます。

この時NW検索分の取込が遅れるため自動的に2段階処理（オプション）で取り込みます。

- 1 ポートにデータが送り込まれますとコールサインで検索を実施（コールサイン、RST、等によりBGA内部処理分を取込）
- 2 = 4秒間スレッド処理でウェイトをかけた後、NWから遅れて取り込まれたデータを上書き取込（全自動）
レ = ワーク欄にのみに取込：登録ボタンを押す必要があります。（半自動）

OK ボタンで
自動取込

FT8交信時JTDX等のLOG入力時に直接ログに取込
 = 直接取込 ⇒ 登録する
 レ = ワーク欄へ書込 ⇒ 修正後登録ボタンで登録）
 ⇔ ①メインオプション⇒登録内に有ります。

リフレッシュ 日付順(Esc)	上書(F9)	受領(F10)	通常	2018	04	13	08	35	JA	接続検索	先読検索	マニュアル	QRZdb ⇒ [JA5BGA] DXCno=[339] Name=[SHINICHI SUZUKI] QTH=799-3111] Country=[799-3111 JAPAN] Land=[JAPAN] GL=[PM63IS]											
検準備 F1 F2(Check)	登録(F8)	全複写 (F5)	局名複 写(F6)	W消去 (F7)	モード検索	周波数検索	周波数	HRS	MRS	Prefix	DXn	名前等 検索	マネージャ	住所検索	P	ゾーン	JCC	GL	IOTA	無線機				
完全一致 検索	部分一致 先頭一致	JA5BGA		モード	14.074.0	HRS	MRS	JA	339	SHINICHI SUZUKI	JAPAN	AS-25	PM63IS	AS-076	IC-7800	T	R	LOTW	e	Q	相手移動	自局移動	申請	400W
BRZ.CO	HAMQTH	IK3QAR	JA5BGA	LOTW=OK BORN=1947	QSLマネージャ=HOME CALL : LOTW OR BUREAU / SHIK																			
↑	コールサイン	日付 時間	モード	周波数	HRS	MRS	呼び	DX	名前等	住所	マネージャ	P	ゾーン	T	R	L	e	備考1	IOTA	JCC	GL	Q		
▶	JA5BGA	2018/04/13 08:36	FT8	14.074.0	-15	-15	JA	339	SHINICHI SU...	JAPAN			AS-25					LOTW=OK BORN=1947	AS-076		PM63IS			
	YC4CHP	2018/04/02 08:34	FT8	21.074.0	+03	+09	YB	327		INDONESIA			0C-28	/			R, E							
	YD2GBS	2018/04/02 08:25	FT8	21.074.0	-01	+20	YB	327	GUNTUR BAMB...	INDONESIA			0C-28	/			R, E			0C-021	0I53KF			

交信記録

Log QSO ウィンドウを表示する

QSOの自動的な記録を可能にする

JTDXの左の画面のいずれかを選択
赤枠を選択すると右上の確認なく取り込みます。（P-6参照）

⑤ FT画面表示例（表示内容、コールサインの取込・検索）

交信状況（年間DXCC）

左側：年間DXCC：デジタルモード and 同一バンド

[スペース]=未更新、[-]=他周波数でQSO済、[Q]=当該周波数で交信済(デュープ)

右側：オール年度、デジタル・バンド別DXCCニュー

[R]=LOTW or カード受領(コンファーム済)、T等=更新済(未受領)、スペース=未更新

DXCCno	PRE	MIX	CW	Phone	Digital	1.	3.	7.	10	14.	18.	21.	24.	28.	50.	FT8(10Byte)	1.9Mf
275	YO	R			R				R	T						RRRRR TR	
074	YS															T	
296	YU	T			T					T						TRRTR T	

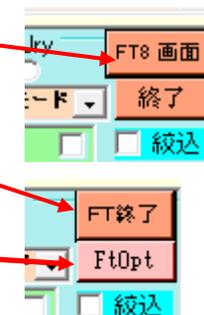
← 左側表示部分

← 右側表示部分 (バンド別・デジタルオール年度)

FT画面開始ボタン

終了ボタン

オプション設定



DG1ELG	UB8SGC	L091	QR	UA0
ZS6MAW	YC1WCK	OI33	-R	YB
CQ	UN7ZV	M051	-R	UN
DK8IF	RA9WAN	-08	QR	UA0
A65DF	UA9TI	L091	QR	UA0
YB6HAI	A45XR	+01	R	A4
ZS6MAW	UR5ECW	KN78	QR	UT
RA0SAB	RM50	RR73	QR	UA1
CQ	UY0IW	KN87	QR	UT
YC7NUL	SV1VS	-12	-R	SV

送信者の
プリフィックス or E N T

コールサインクリック

メイン画面のコールサイン欄に取り込み&検索
コールサインであれば左右いずれでもOK
コールサイン以外は検索に失敗します。

Frq = 10.	====*=====
1 (0)	:
(0)	:
(2)	F F
(0)	:
(0)	:

一目判定

● = バンド別・デジタルニュー、
★ = デュープ (同一モードの同一周波数で交信済)

過去交信回数、

周波数別モード

⑥ J T D X の設定

T C P 接続を選択するとCI-5でのコリジョン（データのぶつかり）が発生する可能性が大了。 (J T D X 側でエラーが発生) U D P 接続をお勧めします。

[目次へ移動](#)

内部ポートを設定します。(各チェックON)

T C P サーバー = 1 2 7 . 0 . 0 . 1 ポート = 5 2 0 0 1

U D P サーバー = 1 2 7 . 0 . 0 . 1 ポート = 2 3 3 3

W S J T - X の設定

内部ポートを設定します。(各チェックON)

全てUDPを使用し、T C P サーバーは在りません。

U D P サーバー = 1 2 7 . 0 . 0 . 1 ポート = 2 3 3 3

Settings

General Radio Audio Sequencing Tx Macros Reporting Frequencies Notifications Filters

Logging

Prompt me to log QSO

Enable automatic logging of QSO

Convert mode to RTTY

dB reports to comments

Clear DX call and grid after logging

Clear DX call and grid on exit

Network Services

Enable eQSL sending

eQSL timer, seconds: 10

Username: JA5BGA

Password:

QTH Nickname:

UDP Server

UDP Server: 127.0.0.1 Accept UDP requests

UDP Server port number: 2333 Notify on accepted UDP request

Accepted UDP request restores wire

prevent spotting messages with the unconfirmed callsigns via UDP

Reporting

記録されたQSO ADIFデータを送る

TCPサーバー: 127.0.0.1

TCPポート: 52001

TCPサーバーへの送信を有効にする

第2UDPサーバー: 127.0.0.1

UDPポート: 2333

第2UDPサーバーへの送信を許可する

Settings

General Radio Audio Tx Macros Reporting Frequencies Colors Advanced

Logging

Prompt me to log QSO

Convert mode to RTTY

dB reports to comments

Clear DX call and grid after logging

Network Services

Enable PSK Reporter Spotting

UDP Server

UDP Server: 127.0.0.1 Accept UDP requests

UDP Server port number: 2333 Notify on accepted UDP request

Accepted UDP request restores wire

N1MM Loggert+ Broadcasts

Enable logged contact ADIF broadcast

N1MM Server name or IP address: 127.0.0.1

N1MM Server port number: 2333

全てアドレスを「1 2 7 . 0 . 0 . 1」に設定

全て「2 3 3 3」に設定

異なるパソコンヘデータを送る場合は「127.0.0.1」をB G A L O G 側のパソコンのアドレスに変更します。例「192.***.**.*」このマニュアルP-12を参照してください。

い。ポートは「52001 or 2333」のいずれかになります。

設定での注意:

T C P (標準の52001)、U D P 共にB G A L O G に合わせてください。U D P が 2 2 3 7 の場合がありますが、全て2 3 3 3 に変更してください。

⑦ JTDX、UDP設定 (TCPからUDPへ変更)

設定

全般 無線機 オーディオ 順序 Tx マクロ レポートイング 周波数 通知・色付け フィルタ スケジューラ 高度設定

送信記録

- Log QSO ウィンドウを表示する
- QSOの自動的な記録を可能にする
- RTTYモードへ変更
- dBレポートをコメントに追加する
- 交信距離をコメントに記載
- 記録の後にコールサインとグリッドをクリアする
- DXコールサインとグリッドをクリアして終了

記録されたQSO ADIFデータを送る

TCPサーバー: 127.0.0.1
 TCPポート: 52001
 TCPサーバーへの送信を有効にする
 第2UDPサーバー: 127.0.0.1
 UDPポート: 2333
 第2UDPサーバーへの送信を許可する

ALL, TXTへのレコーディング

- デコードしたメッセージ
- デコード済とデバッグメッセージ

ネットワークサービス

- eQSLへの送信を有効化
- PSKレポーターへの情報送信を有効化
- DXSummit にスポットを可能化

ユーザーネーム: JA5BGA
 パスワード: ●●●●●●●●
 QTH とニックネーム: JAPAN

UDPサーバー

UDP サーバー: 127.0.0.1 UDP要求を受け入れる
 UDP サーバーポート: 2333 UDP要求があった場合に通知する
 ウィンドウを復元するUDP要求を受け入れる

記録されたQSO ADIFデータを送ることを可能にする
 UDP経由で未確認のコールサインでのスポットを防止
 テキストフィルタをUDPメッセージのトランスミッションに適用

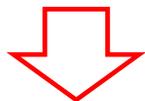
UDP接続をお勧めします。
 TCP接続にすると何かのトラブルによりエラーが発生した場合
 その後の接続がエラーとなり取り込めなくなってしまいます。
 UDP接続にするとそのエラーを無視して接続状態が維持されます。

他のPCへ送信する場合は
127.0.0.1 (自分のPCアドレス) ⇒ 接続先のPCのアドレス (次例) へ変更してください。
例: サーバー = 192.168.*.* サーバーポート = 2333 (固定)

⑧ J T D X、W S J T - X (異なるパソコン間転送) (自宅内に2台のP Cがある場合の設定)

アドレスのみを変更してポートはB G A L O G側に合わせてください。

T C P = 1 2 7 . 0 . 0 . 1 ポート = 5 2 0 0 1
U D P = 1 2 7 . 0 . 0 . 1 ポート = 2 3 3 3



J T D X等のレポートフォルダーを次の様に変更します。

次の様に送り込みたいパソコン (B G A L O G側) のアドレスに変更します。

T C P = 1 9 2 . 1 6 8 . * . * ポート = 5 2 0 0 1 (お勧めしていません)
U D P = 1 9 2 . 1 6 8 . * . * ポート = 2 3 3 3 (全てをこれで接続することをお勧め)

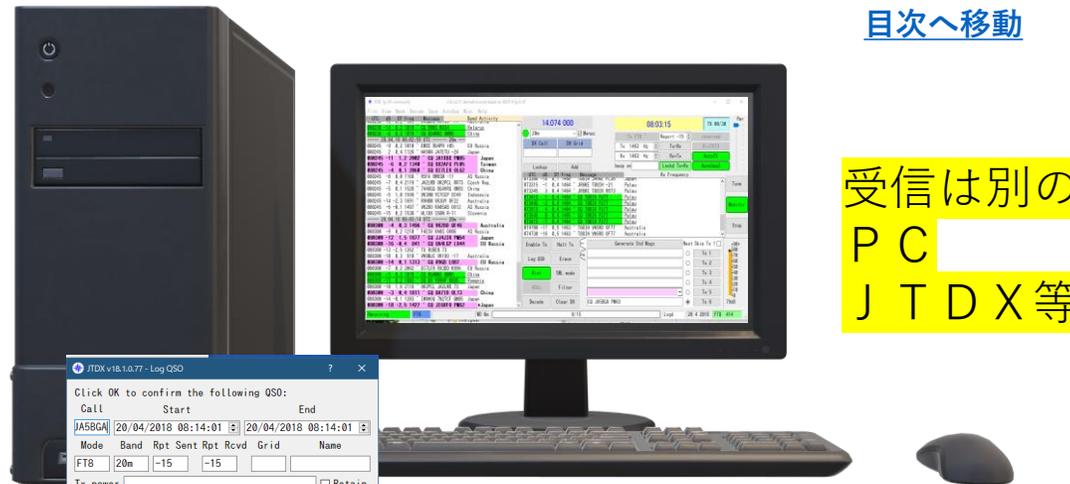
※ J T D Xも最近ではUDP接続が可能となりました。(旧はT C Pのみ)
W S J Tは全てUDPで接続します。

相互にアドレスが明確な場合は、いろいろな組み合わせが可能です。

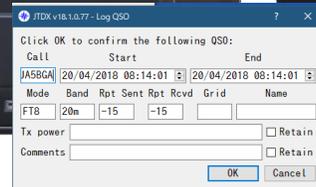
* については、送り先側のパソコンのアドレスを記入します。
固定アドレスがあればインターネット経由でも設定可能です。
その場合は、ルーターの設定を行う必要があります。

別にするメリット

J T D X等の部分とB G A L O Gが同時に検索を行います。
別にする事でC P Uの負担の分散が出来ます。



受信は別の
P C
J T D X等



JTDX等の送る側、例：1 9 2 . 1 6 8 . 1 . 1



BGALOG側、例：1 9 2 . 1 6 8 . 1 . 3



LOGは別の
P C
B G A L O G

ポート=5 2 0 0 1
ポート=2 3 3 3

BGALOG側のアドレスをJTDX等に記載しますが、BGALOG側のアドレスはP-13で確認してください。

⑨ e Q S L . C Cとの連携

E Q S L 直接送信を選択

右図の様に「e Q S L 直接送信」をクリックの都度カレントディレクトリーのデータを自動的にe Q S L . C Cへアップロードが行われ「e」欄に送信済記号が書き込まれます。

また、e Q S L . C Cからは登録済のレポートが帰ってきます。

利用するための環境設定

環境設定の次の場所に e Q S L ログインパスワードを登録 します。

34000630 eQSLpassword ***PSW***

eQSLautoへは右の送信方法選択時に自動登録されます。

34000610	eQSLauto	eQSL直接送信
34000630	eQSLpassword	*****



QSOごとの自動送信

Result: 1 out of 1 records added

Information: From: JA5BGA To: WA9ONY/KH6 Date: 20180203

Time: 0133 Band: 20M Mode: FT8 RST: -15 SatMode: PropMode:

L	e	
	E	

⑩ J T D X (WSJT-X)からのLOG取込に失敗した場合

B G A L O G を未起動等何らかの原因で取込に失敗した場合の措置

1 FILE



2 Open Log Directory



3 WSJT_X.LOG.adi をワード等のツールにより開きます。



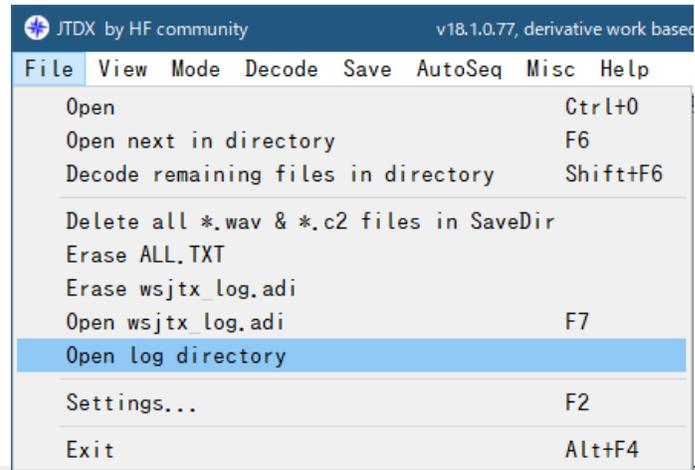
4 該当のデータを見つけてその行全体をコピーします。

5 BGALOGの「FT取込」ボタンクリック

6 ワーク欄に取り込まれた内容を確認して「登録」をすれば完了です。



①



②

save				18/04/05 20:40:25	ファイル フ...
JTDX	.ini	8,895	18/06/03 07:22:35		INIファイル
wsjtx_wisdom	.dat	1,050	18/06/03 07:22:35		DAT ファイル
jt9_wisdom	.dat	33,394	18/06/03 07:22:35		DAT ファイル
ALL	.TXT	7,988,234	18/06/03 07:22:29		テキストファ
wsjtx	.log	50,703	18/06/03 06:18:12		LOGファイル
wsjtx_log	.adi	128,025	18/06/03 06:18:12		ADI ファイル
timer	.out	231	18/03/05 16:18:27		OUT ファイル
全サンプル	.txt	2,393	18/01/21 13:46:54		テキストファ
mazel	.dat	136	17/07/01 07:05:07		DAT ファイル
CALL3	.TXT	0	17/06/02 08:34:51		テキストファ

```
<call:6>VR2VAZ <gridsquare:4>UL7Z <mode:3>F18 <rst_sent:3>-17 <rst_rcvd:3>-13 <qso_date:8>20180602 <time_on:6>204100 <qso_date_off:8>20180602 <time_off:6>204314 <band:3>10m <freq:9>10.136000 <station_callsign:6>JA5BGA <my_gridsquare:6>PM63is <tx_pwr:3>200 <comment:7>COMMENT <eor>
<call:6>DS5USH <gridsquare:4>PM45 <mode:3>FT8 <rst_sent:3>+12 <rst_rcvd:3>+15 <qso_date:8>20180602 <time_on:6>211706 <qso_date_off:8>20180602 <time_off:6>211814 <band:3>17m <freq:9>18.100626 <station_callsign:6>JA5BGA <my_gridsquare:6>PM63is <tx_pwr:3>200 <comment:7>COMMENT <eor>
```



<call:6>DS5USH ~ <eor> までの全てをコピーする

⑪ J T D X、WSJT-XのLOG作成、

それぞれのソフトを使い分けている場合は、ビフォー確認が出来ませんが、それをミックスして各ソフトで使用方法を記載しておきます。



- 1 J T D X用ログデータ「wsjtx_log.adi」の作成FILE
- 2 途中で自局のG Lの確認がありますので4桁で入力します。
- 3 「wsjtx_log.adi」を各プログラムのディレクトリーにコピーします。

B G A L O Gに合わせたデータ管理が出来ます。

この処理をした場合のメリット

Q S O 済、F T 8でのバンドニュー等が正確になります。
 各色により過去の交信状況が明確になります。
 (それによりデュープの心配なく無条件で即コール出来る様になります。)



```
025030 -10 0.5 910 JA3APV YB0BAJ RRR Indonesia
025030 -9 1.1 1568 ~ CQ YB1HK 0I33 Indonesia
025030 -8 0.4 589 ~ CQ BH3MC ON70 China
025030 -8 0.3 971 ~ UN1L RK0J P030 AS Russia
```

カラー等は各自の設定により異なります。
 次ページ参考 (J T D Xの例)

```
072800 -13 0.3 1138 ~ K8TL KI7FBQ 73 K
072800 -2 0.3 2387 ~ CQ UB0IBA Q059 UA9
072800 -15 0.7 1485 ~ UA9APA WP4SK -14 KP4
072800 -10 0.3 683 ~ UA0BA JH1NCZ PM95 JA
----- 24.11.18 07:28:29 UTC ----- 40m ----
072815 8 0.3 581 ~ JR2VQU RU0LI 73 UA9
072815 4 0.4 2104 ~ CQ JK7BEJ QN00 JA
072815 3 0.3 450 ~ LW8DOZ JR30EH -16 JA
```

未交信 (ピンク)
 交信済 (カラー無)
 ニュー (オレンジ)

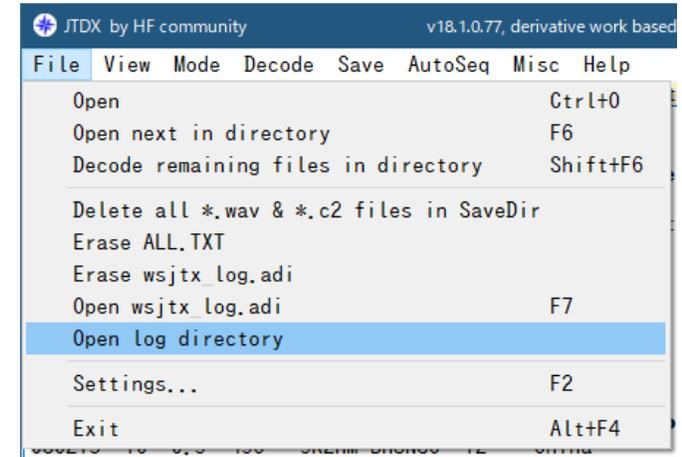
C Q (ピンク、未交信)

⑫ J T D X、WSJT-Xのデータの場所

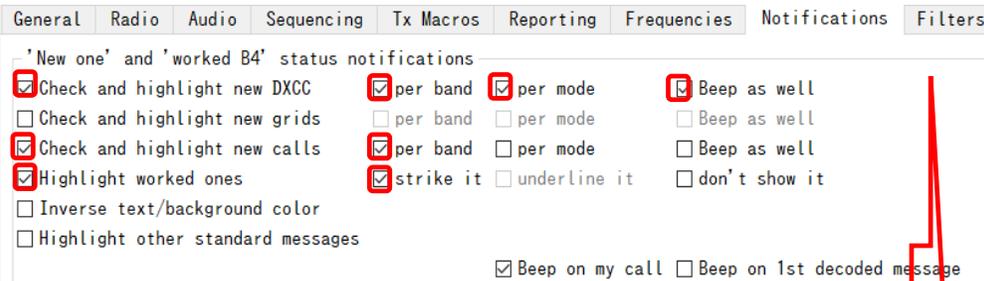
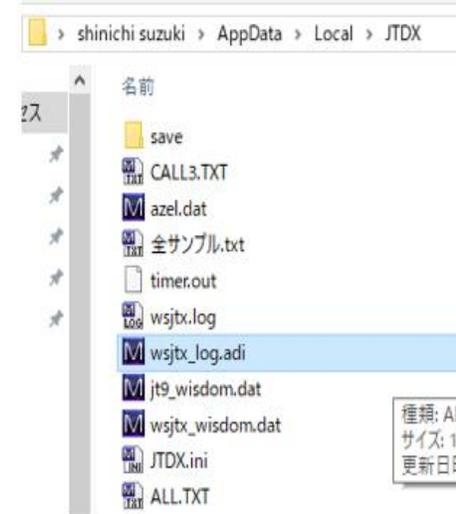
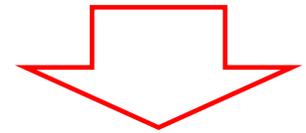
それぞれのソフトは基本的にベースが同一ですので次の場所にあります。

- 1 「wsjtx_log.adi」各ソフトのLOG帳で同一の名前となっています。
このファイルによりデューブを表示しています。
B G A L O Gで作成 (P-10) したものを書き込むといずれのプログラムでも共通してデューブ管理が出来ます。

- 2 「wsjtx.log」各ソフトのLOG帳で同一の名前となっています。
このファイルからBGALOGへ取り込まれなかったデータを取り込むことが出来ます。



F T 8 カラー等の設定例と表示例 (J T D Xのみ) WSJTにはオプションがありません (P-21関連)



カラー等設定例参考

当方の設定サンプルです。

カラー変更
(クリック) ⇒

Transmitted message	CQ in message	My Call in message	Other standard message
K1ABC	K1ABC	K1ABC	
New DXCC	K1ABC	K1ABC	
New DXCC on Band/Mode	K1ABC	K1ABC	
New Grid			
New Grid on Band/Mode			
New Call	K1ABC	K1ABC	
New Call on Band/Mode	K1ABC	K1ABC	
Worked one	K1ABC	K1ABC	

CQ ZP5DVD GG14 ZP
 JA5BGA ZP5DVD R-04 ZP
 JA5BGA ZP5DVD 73 ZP
 DV21 CD V31MA -11 V3
 CQ FR/F1FJR FR
 CQ ZP5DVD GG14 ZP
 CQ JE6LAP PM53 JA
 CQ DX YB7SKM OI67 YB
 CQ 9M2T0 OJ05 9M2
 UA9APA WP4SK -14 KP4
 W8KF HI8JSG -05 HI
 A61FK ZS6GC KG43 ZS
 JF3NZA BH8NSC -11 BY
 JF3NZA UN3GX MN83 UN

メッセージ部分のカラー内容

- グリーン = FT8 DXCCバンドニュー
- レッド = QSOコールバック
- レッド = デューブ (QSO済、取消線)
- 白 = 未交信局
- オールバンドニューの場合はグリーン⇒オレンジ

CQの例 CQとその他で異なります。

- 1 オールバンドFTニューカントリー
- 2 未交信局、バンドFTニューカントリー
- 3 未交信局、DXCCニューではない
- 4 他バンドでQSO済、このバンド未交信
- 5 QSO済、デューブ (CQ時のみ取消線有り)

CQ以外の例

- 1 オールバンドFTニューカントリー
- 2 バンドFTニューカントリー
- 3 オールバンド未交信局
- 4 他バンド交信局、このバンド未交信
- 5 バンドでQSO済局、デューブ (行全体全てのカラー無)

⑬ 自分の IP アドレスを調べる方法

それぞれのソフトは基本的にベースが同一ですので次の場所にあります。

スタートボタンクリックで次の様に実施してください。

1 WINDOWシステムツール

2 コマンドプロンプト を起動

3 「IPCONFIG」と入力後 Enter

4 IPv4 アドレスを記録します。

(192.***.***.***) *** = 1~3桁です。
(スパム対策の為データを隠しています。)

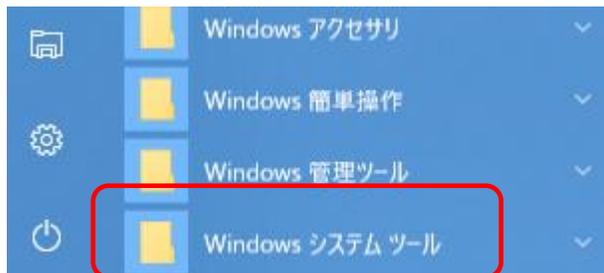
※ 送られる側のパソコンのアドレスを調べておきます。(BGALOG側のPC)

※ ポート番号は、使用ソフトにより異なります。
P-6を参照してください。

TCP経由は 52001

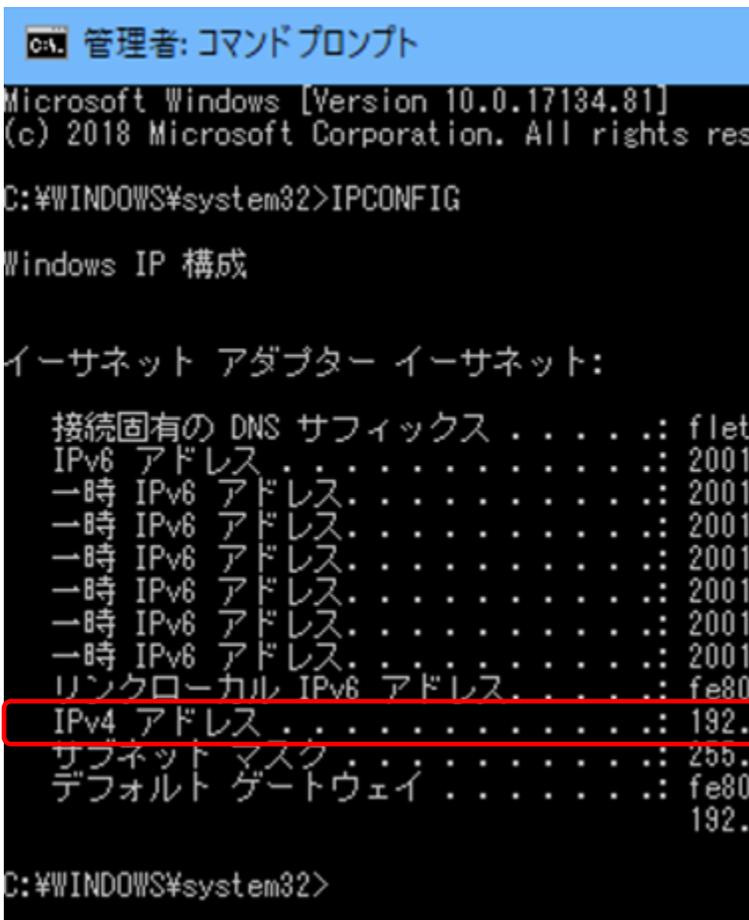
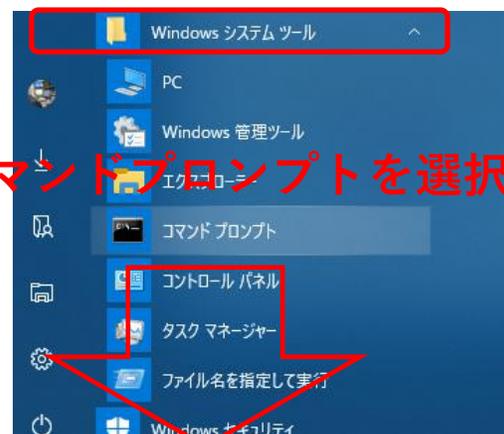
UDP経由は全て 2333 に設定

(2237 は不可)



目次へ移動

コマンドプロンプトを選択



左の図はスパム対策の為アドレスの右半分をカットしています。

このアドレスはルーターから割り振られます。

IPv4 アドレスがそのパソコンのアドレスです。(192.で始まります)

異なるパソコン間の転送は「P-6」を参照してください。

良くある IP アドレスの例

192.168.24.1、192.168.1.1、

192.168.0.3、

使用するルーターの設定により異なります。

⑭ デジタルモードの内訳確認 (検索後の確認)

デジタルモードの内訳表示

DXCCはデジタル1本となり詳細が不明です。
これを明らかにしてデジタルでもモード別に楽しめるようにしました。
デジタルの詳細モードの内訳を表示します。

DIGITAL Mode内訳

左側のデジタル欄の内訳を表示

- R = RTTY
- P = PSK
- F = FT8
- 他 = その他: JT65、RO、OL、SSTV

対象局抽出: 🖱️ (ハンドマークが表示される場所すべて) →

[コールサイン] [バンド 1.9~50の文字] [DXCC番号] [カントリーリスト] [T] [R]
[CW] [PHONE] [DIGTA] 等

文字を (シングル or ダブル) クリックで該当の局を業務日誌欄に抽出します。

UI Elements: 321, VR, UTC-21 23:50, JST: 09/22 08:50:27, AS-24, VR: 09/22 07:50:27, HONG KONG, IOTA, CW, PHONE, DIGITAL, R P F 他, P, -7, GL地区, OL72CM, 2253 Km, 239, 59, DXc保守, JCC保守.

Band	Call Sign	Mode	Digital Mode	Other
1.9	VR2PX			
3.5	VR2JC			
7	VR2KF	VR2KF	VR2XMT	R
10	VR20/P	321	VR2XMT	R, R
14		VR2XMT	VR2CO	T, R, R, R
18	VR2MY	VR2FIFA	VR2XMT	R, T, R
21	T	T	VR2UNG	R, R
24	VR2PX	VR2XMT	VR2XMT	R
28		VR2XMT	VR2XMT	R
50	VR2RR	VR2RR	VR2IL	R, R

カラーは検索局と交信済の場所です。

⑮ (A) デコード時、(B) 検索時のDXCC内訳確認

(①DXCCデジタルニュー、②年間DXCCニュー、③FT8のみでのDXCCニュー)

VE2GUR ON5R 15	QR
R9YBX N7BT -17	QR
CQ KP4JRS FK68	N
CQ JI1CRM QM07	QR

②年間DXCCニュー

N=New
Q=QSO済

③FT8のみでのDXCCニュー

T=交信済
R=カード受領済 (含むLOTW)
スペース=未交信

①DXCCデジタルニュー

[14_DIG] (穴埋めニュー)、
-Dig- (モードニュー)、
[20] (バンドニュー)、
[MIX] (MIXニュー)

[14_DIG] (穴埋めニュー)、
-Dig- (モードニュー)、
[20] (バンドニュー)、
[MIX] (MIXニュー)

CQ W1EHQ FN42	QR	14. USA	
IZ4YKT JA5GYU -16	QR	14. JAPAN	
CQ NA IK4RAS JN54	QR	14. ITALY	1回 :21. FT8 < L >
ZP6SKY PS8RV GI84	QR	14. BRAZIL	
JA4MOK CU2AP 73	Q	14. AZORES IS.	1回 [14 Dig] :18. FT8 < R >
W1UV EK1KE -12	QT	14. ARMENIA	3回★:21. PSK < L >:18. FT8 < L >:14. FT8 < L >
EA5CRC W7GEM DN40	QR	14. USA	
CQ BV7RR PL02	QR	14. TAIWAN (FORMOSA)	1回★:14. FT8 < R >
IT9CCB JA1CHY RRR	QR	14. JAPAN	

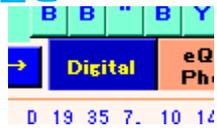
★印=デュープ (同一周波数・モード交信済)

2回★:21. FT8 < R >:14. FT8 < >
1回 :28. FT8 < L >

過去の交信状況表示は26ページを参照してください。(変更しています)

(B) 検索時のDXCC

検索時にはデジタルモードの内訳が星取表において確認できます。DXCCはデジタルのみでの管理となりますが、BGALOGでは詳細管理ができます。CU2APを検索時の例です。



完全一致 検索 部分一致 先頭一致 CU2AP

QRZ.CO HAMQTH IK3QAR CU2AP LOTW=OK BO

↑	コールサイン	日付 時間	モード	周波数
▶	CU2AP	2018/05/30 12:26	FT8	18.10

<input type="checkbox"/> DX	<input type="checkbox"/> フリフィックス	eQSL	FT8	DX					
レ=JA		Photo	保守	保守					
DX									
149	M F C D 19 35 7. 10 14 18 21 24 28 50								
CU	R R R R T R R R R R								
MIG:21 23:54 JST : 09/22 08:54:42									
EU-14 CU : 09/21 22:54:42									
AZORES IS.									
IOTA	CW	PHONE	DIGITA	R	P	F	他	星	備考
1.9									GL地図
3.5		T							HM68IQ
7									11827 Km
10	CU1CB	149							
14	CU1CB	CU1CB							
18	CU1CB	CU7MD	CU2AP	T	R				
21	T	CU2EL							342
24									162
28		CU7MD							DXc保守
50									JCC保守

(A) デコード時のDXCC等

デコード時にFT8での交信状況がいろいろな表示方法で同時に確認できます。

- ① DXCCデジタルニュー ([*]、-*カッコ等で表示)
- ② 年間DXCCニュー (N、Q記号で表示)
- ③ FT8のみでのDXCC (R、T、スペース記号での表示)

⑩ FT8を使用するためのデータベースの準備 ① ⇒ ② ⇒ ③ ⇒ ④ と順にボタンを押すのみです。
 (FT8のデコード機能を使用するにはデータベースの通信が必要です。必ず次を実施してください。)

① 全データ(全項目)完全削除 ※ 事前に「C:\¥BGALOG¥BGADXCCLIST.TXT」が存在することを確認しておいてください。

[目次へ移動](#)

現在の年間DXCCリストを全て削除します。

② 「BGADXCCLIST.TXT」でリスト更新(初期化)

テキストファイル(BGADXCCLIST.TXT)から年間DXCCリストを新規に作成します。

③ FT8リフレッシュ

FT8の通信状況を業務日誌より抽出して登録します。

④ 年間DXCC(再構築)

今年の業務日誌より年間DXCCリストを全て再構築します。

③④については今後適宜実施

業務日誌の登録誤り等が発生して不一致となった場合に適宜実施してください。
 自動的に登録業務日誌に基づき整合させます。

通年FT8専用DXCC管理(年間ではありません)

年間DXCC管理

DXCCNo	PRE	MIX	CW	Phone	Digital	1	3	7	10	14	18	21	24	28	50	FT8(10Byte)
202	KP4															
043	KP5															
266	LA	R			R	T			R	T						T RR
100	LU	R			R			R			R	T				R RT
254	LX	R			R				R	T						RT
146	LY	R			R	R			R		R					R R R
212	LZ	R			R			R	T					R		RT R
136	OA	T			T				T							T
354	OD	R			R				R	T						RT
206	OE	R			R	R		R	R		R			R		R RR R R
224	OH	R			R	T			R		T					T R T
005	OH0															
167	OH0M	T			T				T							T
503	OK	R			R			R	R		R	T		R		RR RT R
504	OM	R			R			R	T	T	R					RTTR
209	ON	R			R	R			R		R					R RRR
237	OX															
222	OY															
221	OZ	T			T						T					T

表示年 2018

年間DXCC(再構築)

④ 業務日誌から更新
 年変更時、矛盾発生時等に実施

③ FT8 リフレッシュ

☑ レ=年間QSOを必要時以外管理をしない

DXCCグラフ(分析詳細表示)

チャレンジ計 384

「データ保守用」(以下は通常未使用です。)

「BGADXCCLIST.TXT」でリスト更新(初期化) ②

全データ(全項目)完全削除 ①

FT8、エンティティ画面切替

⑪ 画面表示例

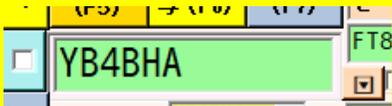
双方のフォントの大きさを合わせておく必要があります。

サブ画面との並べ方例

サブ画面をこのように左側に並列に並べるとニューの状態やデュープなどが相互にわかり便利です。

* アスタリスク

メイン画面での検索局を表示しています。



表示内のコールサインをクリックすると自動でコールサイン欄に登録され、その局の先頭に表示されます。

レ 表示したいカントリー



表示内のカントリーを次の方法によりクリックすると自動で登録されそのカントリーにチェックマークがつきます。(直接記入も可)

登録 = [Ctrl] + [クリック]

交信済非表示 = 登録削除 (リフレッシュ)

Call Sign	Country	Status
CQ RU0SP 0006	QR UA0	(0)
N3XLS VK5MRD -18	QR VK	(0)
CQ US4IQ KN88	QR UT	(1)
CQ R7BL LN06	QR UA1	(0)
CQ RV3LE K075	QR UA1	(0)
IU1DXU R9HAV N009	QR UA0	(0)
K9GQ JH2QBV PM85	QR JA	(1)-D
7K3QPL JA3RAY -16	QR JA	(0)
===== Time = 34 : 45 ===== Frq = 14. =====*=====		
YC7URE RA0LX 73	QR UA0	(1)-D
CQ DX JA4DWG PM64	QR JA	(0)
YB2RT JA1CQK RR73	QR JA	(0)
CQ RW0CD PN78	QR UA0	(1)-D
K3DCQ JG1BKX R-15	QR JA	(0)
* YB4BHA JH4BYZ RR73	QR JA	(0)
W0GG JE1WIF RR73	QR JA	(0)
RW0CD BX6ACG PL03	QR BV	(0)
UN7PAK HL3ANE RR73	-R HL	(0)
W6MSN JK1JXB -17	QR JA	(0)
GI0LDI JS1MRA QM05	QR JA	(0)
RA1OK R4PI -17	QR UA1	(0)
CQ NA JE1JKT PM95	QR JA	(0)
JA3RAY 7K3QPL R-11	QR JA	(4)
===== Time = 35 : 00 ===== Frq = 14. =====*=====		
F6CCS DK5AI R-10	QR DL	(2)-D
PD2WL GI0LDI RR73	QR GI	(0)
RW0CD R9UO +02	QR UA0	(1)
DL6GBM UA9UMF RR73	QR UA0	(1)
CQ LZ3CB KN32	-R LZ	(0)
CQ NA JA1UQA PM95	QR JA	(0)
CQ BG2EFX PN26	QR BY	(2)-D
G3RIK UA0IGG Q059	QR UA0	(1)-D
CQ HG8LXL KN06	QR HA	(1)-D
K9GQ JA3IJW PM74	QR JA	(0)
CQ YC7URE OI88	QR YB	(0)
L21RCA JA1PYZ PM96	QR JA	(0)
IU1DXU R9HAV N009	QR UA0	(0)
CQ RU0SP 0006	QR UA0	(0)
HL3ANE UN7PAK R-22	QR UN	(0)
CQ RV3LE K075	QR UA1	(0)
N3XLS VK5MRD -18	QR VK	(0)
K9GQ JH2QBV PM85	QR JA	(1)-D
CQ R7BL LN06	QR UA1	(0)
7K3QPL JA3RAY -16	QR JA	(0)
JA1CQK YB2RT 73	QR YB	(0)
CQ US4IQ KN88	QR UT	(1)

Call Sign	dB	DT	Freq	Other Info
073445 -4 0.1 2129	-4	0.1	2129	CQ DX JA4DWG PM64
073445 2 0.2 1553	2	0.2	1553	YB2RT JA1CQK RR73
073445 4 0.0 207	4	0.0	207	CQ RW0CD PN78
073445 -2 0.1 1332	-2	0.1	1332	K3DCQ JG1BKX R-15
073445 -6 0.0 400	-6	0.0	400	YB4BHA JH4BYZ RR73
073445 -1 0.0 2402	-1	0.0	2402	W0GG JE1WIF RR73
073445 -9 0.6 1946	-9	0.6	1946	RW0CD BX6ACG PL03
073445 0 0.5 1643	0	0.5	1643	UN7PAK HL3ANE RR73
073445 0 0.3 1430	0	0.3	1430	W6MSN JK1JXB -17
073445 -1 -0.0 542	-1	-0.0	542	GI0LDI JS1MRA QM05
073445 -15 0.1 2470	-15	0.1	2470	RA1OK R4PI -17
073445 -4 0.4 1209	-4	0.4	1209	CQ NA JE1JKT PM95
073445 -10 -0.0 1206	-10	-0.0	1206	JA3RAY 7K3QPL R-11
14.07.21 07:35:14 UTC				20m
073500 -13 -0.2 2354	-13	-0.2	2354	F6CCS DK5AI R-10
073500 -10 0.1 1499	-10	0.1	1499	PD2WL GI0LDI RR73
073500 -11 0.0 2559	-11	0.0	2559	RW0CD R9UO +02
073500 -7 0.1 2044	-7	0.1	2044	DL6GBM UA9UMF RR73
073500 -12 0.2 777	-12	0.2	777	CQ LZ3CB KN32
073500 -1 0.1 1261	-1	0.1	1261	CQ NA JA1UQA PM95
073500 3 0.2 454	3	0.2	454	CQ BG2EFX PN26
073500 -12 0.1 1818	-12	0.1	1818	G3RIK UA0IGG Q059
073500 -10 0.0 2182	-10	0.0	2182	CQ HG8LXL KN06
073500 -9 -0.6 871	-9	-0.6	871	K9GQ JA3IJW PM74
073500 -7 0.1 1382	-7	0.1	1382	CQ YC7URE OI88
073500 -5 0.1 508	-5	0.1	508	L21RCA JA1PYZ PM96
073500 -13 -0.5 970	-13	-0.5	970	IU1DXU R9HAV N009
073500 -3 0.1 1171	-3	0.1	1171	CQ RU0SP 0006
073500 -13 -1.1 1692	-13	-1.1	1692	HL3ANE UN7PAK R-22
073500 -13 0.3 2095	-13	0.3	2095	CQ RV3LE K075
073500 -14 0.1 1002	-14	0.1	1002	N3XLS VK5MRD -18
073500 -8 0.1 1194	-8	0.1	1194	K9GQ JH2QBV PM85
073500 -24 -0.2 1138	-24	-0.2	1138	CQ R7BL LN06
073500 -17 0.0 908	-17	0.0	908	7K3QPL JA3RAY -16
073500 -16 0.3 1553	-16	0.3	1553	JA1CQK YB2RT 73
073500 -19 0.2 2131	-19	0.2	2131	CQ US4IQ KN88

18 カラー設定表示例

(2018/12/06現在の設定)

[目次へ移動](#)

最近では次の様に変更しています。

ニュー系 (グリーン系)

DXCCニュー (グリーン)

バンドニュー (薄緑)

CQ系 (ピンク系)

未交信局 (ピンク)

他バンドで交信局 (薄紫)

デュープ (黄色)

CQの場合は取消線がありますが、
CQ以外の場合にわかりにくいので
黄色を濃くしました。

Settings

General Radio Audio Sequencing Tx Macros Reporting Frequencies Notifications Filters Schedu

'New one' and 'worked B4' status notifications

<input checked="" type="checkbox"/> Check and highlight new DXCC	<input checked="" type="checkbox"/> per band	<input checked="" type="checkbox"/> per mode	<input checked="" type="checkbox"/> Beep as well
<input type="checkbox"/> Check and highlight new grids	<input type="checkbox"/> per band	<input type="checkbox"/> per mode	<input type="checkbox"/> Beep as well
<input checked="" type="checkbox"/> Check and highlight new calls	<input checked="" type="checkbox"/> per band	<input checked="" type="checkbox"/> per mode	<input type="checkbox"/> Beep as well
<input checked="" type="checkbox"/> Highlight worked ones	<input checked="" type="checkbox"/> strike it	<input type="checkbox"/> underline it	<input type="checkbox"/> don't show it
<input type="checkbox"/> Inverse text/background color			
<input type="checkbox"/> Highlight other standard messages			

Beep on my call Beep on 1st decoded message

Markers Other standard messages red / my call in message blue / my call at QS0

Configuration tips

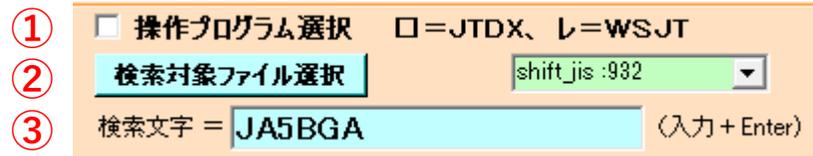
Transmitted message	CQ in message	My Call in message	Other standard message
	K1ABC	K1ABC	
New DXCC	K1ABC	K1ABC	
New DXCC on Band/Mode	K1ABC	K1ABC	
New Grid			
New Grid on Band/Mode			
New Call	K1ABC	K1ABC	
New Call on Band/Mode	K1ABC	K1ABC	
Worked one	K1ABC	K1ABC	

⑩ J T D X等のデータ内検索（デコードデータ、LOGデータ、等々） （J T D Xのデコードデータ内を検索する方法の例）

（J T D Xのデコードデータ内を検索する方法の例）
すぐ上のテルネット検索内に表示されている内容であれば、同様の方法で各種ファイル検索が可能です。

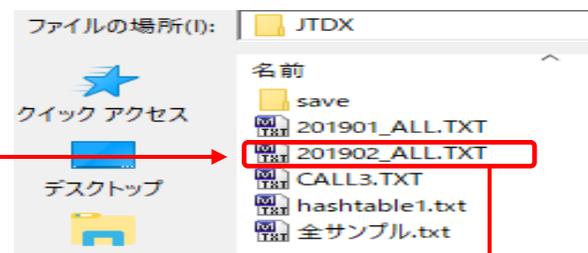
1 検索するプログラム選択

J T D Xの場合はチェックを外します。



2 検索対象ファイル選択

Wクリックすると検索欄に選択したテキストが表示されます。



3 検索文字入力後、リターンキー

結果がメッセージに表示されます。

表示内容が多くて確認しにくい場合は「検索画面へコピー」を実施
で検索画面にコピーされます。

ネットワークメイン	局別星取表管理	パデション局表示	オプション他	年間C				
20190201	011330	-6	0.6	241	~	CQ	6K5XZE	PM45
20190201	011345	-1	1.3	1401	~	LZ2FU	BD3RK	OM77
20190201	011405	7.074	MHz	FT8	JTDX	v2.0.1-rc115		
20190201	011400	-10	-0.5	1511	~	CQ	BD7IIS	OL62
20190201	011415	1	1.3	1400	~	LZ2FU	BD3RK	OM77

※ 当方の使用例

F T 8のデータは15秒ごとにスクロールされます。
そのため、再確認が難しい状況にあり、後から目的の局
などを再確認をしたい場合等に活用してください。

B G A LOG メッセージ ボックス (画面クリック or エンターキーで終了、マウスの「戻るボタン」でMSG.TXTへ書き込み) M0

検索画面へコピー

[JA5BGA] が次の通り (294) 件 見つかりました。

9649	行目	20190201	065719.866	Transmitting	14.074055	MHz	FT8:	9X2AW	JA5BGA	-17
9827	行目	20190201	070022.467	Transmitting	14.074055	MHz	FT8:	9X2AW	JA5BGA	-17
9885	行目	20190201	070115.954	Transmitting	14.074055	MHz	FT8:	9X2AW	JA5BGA	-17
9932	行目	20190201	070216.771	Transmitting	14.074055	MHz	FT8:	9X2AW	JA5BGA	-13
10000	行目	20190201	070315.830	Transmitting	14.074055	MHz	FT8:	9X2AW	JA5BGA	-13

このほかにもメイン画面の「⑩ ファイル内容確認」内にも同様の機能があります。

⑳ 快適に使用するために

J T D X等を長時間使用時のレスポンス低下対策

これはJ T D X等のデコードデータがファイルに蓄積されたままになってしまうことにあります。

次を実施すると軽くなります。

1 J T D Xの直近取込データを削除

J T D Xの「ERASE」ボタンでたまっているデコードデータを削除
長時間連続使用するとかなりストレスがたまります。

2 ALL.TXTの削除（作成しないように設定することを推奨）

FILE ⇒ オープンログディレクトリー ⇒ 全てのALL.TXTを削除
これは過去のデコードされたすべてのデータが保存されています。

年、月、ALL.TXT（例：ALL.TXT、201901_ALL.TXT）のファイルは単に
ディスクのごみとなるのみですので削除します。

これは、他のシステムでデコードデータを使用できるように排出しているものですが、
B G A L O GはUDFで直接取得しますので使用しないために不要なファイルです。
次の様に大量のデータが書き込まれています。（80万件が登録されていました。）
各ソフトで停止設定ができます。

3 余分なデータ保存を行わない

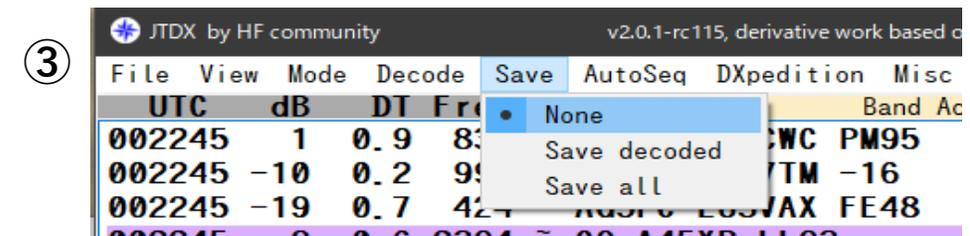
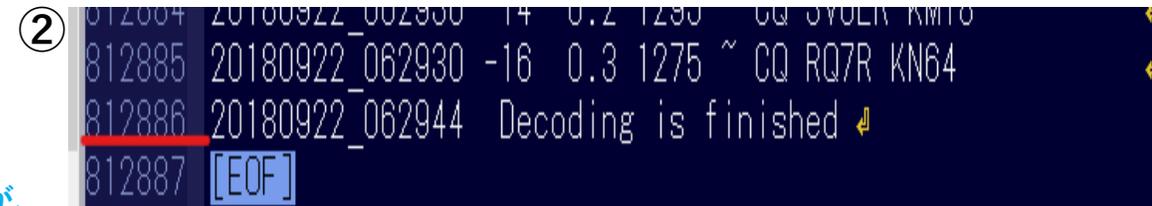
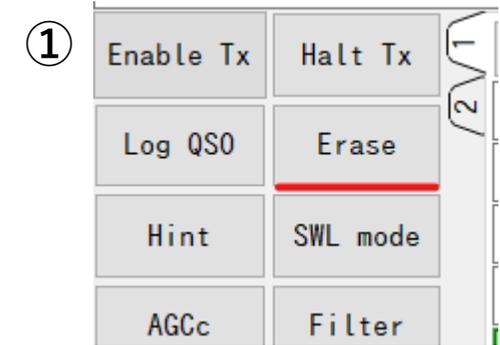
次の場所を「None」に設定し不要な書き込みタイムと不要なごみファイルをなくします。

4 B G A L O G側

最大100行以上のデータは削除しますので不要であり、気分の問題ですが実施してみてください。

「再」でリフレッシュ、

「FT終了⇒開始」取込表示がおかしい場合はこれも実施してみてください。



※ J T D X等側でストレスがたまるとB G A L O G側での表示がばらばらともたつきが出て極端に処理が遅れだします。

②1 F T画面オプション画面設定

4630	N60Q	RW0SJ	-04	QR	L	14.	UA0
4630	UA0QMM	R9YB	R-17	QR	L	14.	UA0
4630	EX0QP	K6JO	-14	QR	L	14.	K
4630	CQ DX	RA9UUG	N034	QR	L	14.	UA0
4630	CQ	VK4KL	QG53	QR	L	14.	VK
4630	CQ	UN7ZAR	M051	QR	L	14.	UN

LOTWチェック

LOTW登録局を表示します。デコード1局取込ごとに「lotw-user-activity.csv(約133)千件」から検索しますのでCPU負荷がかかります。

フォント設定

J T D X等と同じに設定すれば横並びで比較ができます。

過去交信状況

過去の交信内容の表示の有無を選択します。

エンティティ表示

プリフィックスとエンティティの表示を切り替えます。

タイム区切りのラインの表示

デコードごとの区切りラインを選択します。

未登録チェック

J T D X等からB G A L O Gへの登録漏れ未登録のデータをチェックします。右のチェックボタンでチェック場所を選択します。

FT オプション画面

JTDX、WSJT LOG未登録チェック実施 & 自動取込 JTDX WSJT

FT画面フォント設定 = 14 (標準14ポイント)

エンティティ等表示 表示内容 非表示 エンティティ する プリフィックス

未登録ファイル選択 下記以外のファイル選択 or 削除

検索対象場所 = C:\Users\ja5bg\AppData\Local\JTDX\202107_ALL.TXT

検索文字 = + Enter = 検索実行

FT マニュアル

FT8画面表示位置初期化

① FTデータ作成 JTDX、WSJT マージ ログデータ「wsjtx_log.adi」の作成

② JTDX C:\Users\ja5bg\AppData\Local\JTDX\wsjtx_log.adi

② WSJT C:\Users\ja5bg\AppData\Local\WSJT-X\wsjtx_log.adi

③ 環境登録 & 作成DT上書 上記作成DT & アドレスを登録
上記アドレス ⇒ 環境ファイルへ登録
作成データ ⇒ JTDX、WSJT

この画面の他、メイン画面に「① ファイル内容確認取込」があります。

F T画面自動起動

テルネット画面表紙時にF T画面を同時に起動します。

F T画面位置表示初期化

メイン画面の左上に表示をリセットします。

UDPデータのソース表示

UDP経由でポートに送られてくる未加工(生)のデータをそのまま表示します。送られてくるフォーマットをチェックするためのものです。

※ F Tデータが正しくない場合にここにチェックを入れて表示確認します。

J T D X、W S J T - Xデータ統合

- ① B G A L O Gから双方のデータを作成します。
- ③ 作成したデータを②の場所へ書き込みます。

注意：エラー等でうまくいかない場合

①作成後にBGALOGフォルダー内に「wsjtx.log」が作成されますのでこれを「JTDX、WSJT」の使用中のフォルダーに上書きすることで完了です。上書後はBGALOGフォルダー内の「wsjtx.log」は削除しておいてください。(③後は自動で削除)

デコードデータ検索 (次ページ)

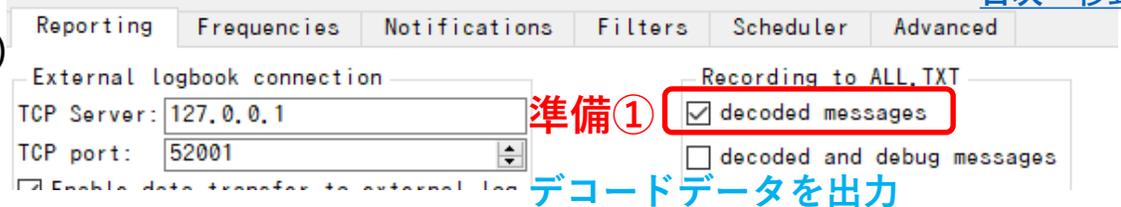
A L L . T E X T等のファイルから直接検索を行い上の検索欄へ表示します。

- ① 検索場所を選択して検索欄へ取り込みます。表示されていない場所は「検索対象ファイル選択」で選択します。
- ② 検索文字を入力してエンターキーで検索ができます。

```
[ JA5BGA ] が次の通り (60) 件 見つかりました。終了=リフレッシュ
文字列のコピー = マウスの左ボタンで必要範囲をなぞる (リバース)、クリック不可
15 行目 20190807_152038.499 Transmitting 10.136 MHz FT8: UK7AL JA5BGA -01
16 行目 20190807_152100.032 Transmitting 10.136 MHz FT8: UK7AL JA5BGA -01
17 行目 20190807_152115 -2 0.9 1922 ~ JA5BGA UK7AL R-11
18 行目 20190807_152130.132 Transmitting 10.136 MHz FT8: UK7AL JA5BGA RR73
```

②オプション画面 (JTDX等のデーコードファイル直接検索)

B G A L O Gから直接JTDX等の「*****ALL.TXT」等を検索しメッセージ欄へ表示します。(特定局のコールしている周波数などを一覧で確認できます。)



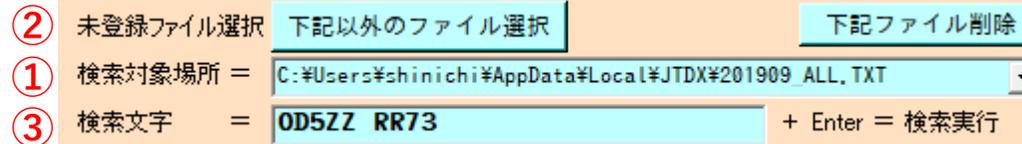
注意

ONにするとすべてのデコードデータをディスクに書き込むためディスク容量が増え、書込のためのCPU負荷が増えます。

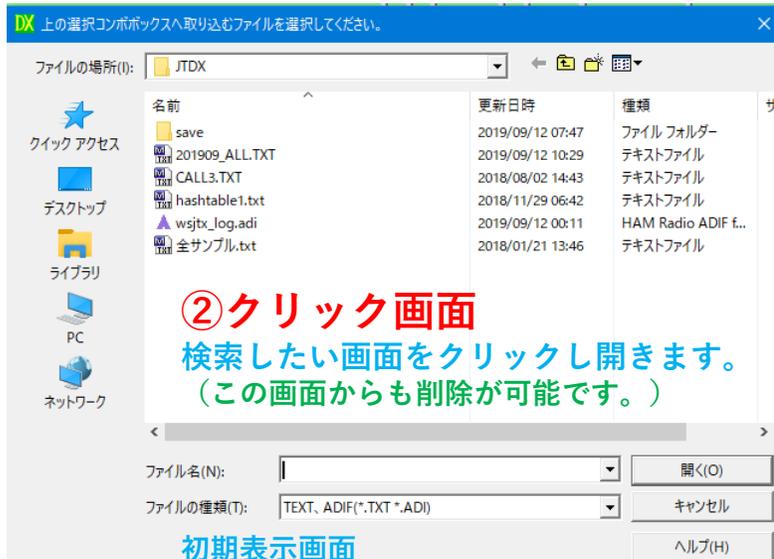
手順

- ① 検索対象場所を選択
- ② ①に表示されていない場合
検索対象ファイル選択 (すでに検索対象場所に表示されている場合は操作不要)
- ③ 検索文字列をJTDX等からコピー (コピー例: OD5ZZ RR73)
自局の内容を知りたい場合は自局コールサインを記入
- ④ メッセージ欄に表示されます。

説明の画面



※ ③の検索文字はWSJT等の画面等の文字をコピー、or 直接書き込み後に「エンターキーを押してください。」



②クリック画面

検索したい画面をクリックし開きます。(この画面からも削除が可能です。)

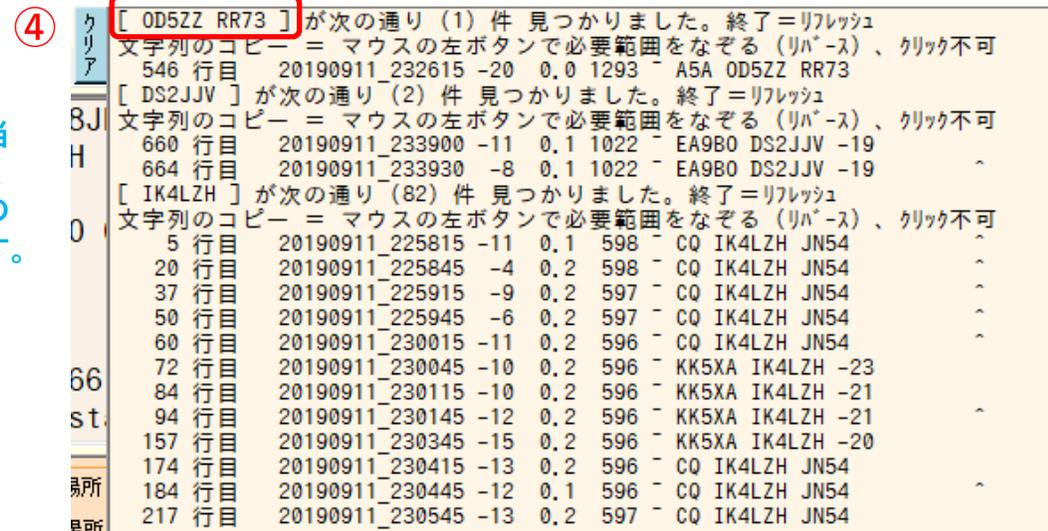
初期表示画面

テキストファイルとADIFファイルのみ表示します。

ファイルの削除 (推奨)

全てのデコードデータを保存すると相当量のデータが「*****ALL.TXT」に書き込まれシステムの負荷が大きくなりますので定期的に削除することをお勧めします。

JTDX = 月単位で作成されます。
WSJT-X = 「ALL.TXT」



②③ デコードデータ簡易検索

「コールサイン、プリフィックス検索」の内容抽出 [*] 対象データをアスタリスク表示

取込

メッセージ欄の
コールサインクリック
(左右のいずれもOK)

取込後、
アスタリスクが表示

DX FT画面

前面表示 全クア マニュアル PRE検索文字= UA0 文字数= 52

メッセージ 年間DXCC FT-QSO LOTW 周波数 カト 過去000回数 ★デューブ° ●モードNew 交信

--- Time = 24 : 45 --- Frq = 7 ---

* CQ UA90ES M093 QR UA0
YF8ABL HL2VXK R-13 -R HL
B7/BG5TTC YC1CQD OI33QR YB
B6/BI4RFS JA5CEX PM74QR JA
CQ BX2AAA PL05 -R BV
UA3VVA JA7FVA -05 QR JA
DS5USH BI6IZS 73 QR BY
UA3VVA JA3VXM PM75 QR JA
CQ 9W8MAD OJ51 R 9M6
* OH8MXJ JA7NGE -23 QR JA
CQ JA5BDZ PM64 QR JA
WB7AC JH3IOY PM74 QR JA
CQ BI4PDD PM06 QR BY
CQ YD9AGJ OI71 QR YB
CQ JR2UYA PM95 QR JA
CQ YD1CHM OI33 QR YB
WJ5L JH4MJ0 PM64 QR JA
UA0DX YD1DVI R-06 QR YB
* VK2VH RZ9UM N033 QR UA0
BT7MVI JA1P7E PM05 QR JA

[Ctrl] + [Enter] = PRE 検索文字欄へ登録
直接の書き込みもOK

[スペース] = 年間QSO未更新
[-] = 年間QSO

過去QSOは下図の様に表示変更 (P-26参照)

F	F	S : SS
FF	FF	F
(0)	:	:
Frq = 14.	====*=====	:
(0)	:	F :
		: S
		S :
		:
		FF: F

Fの記号はモードの先頭記号で同一周波数で
複数交信の場合は、最新の更新を表示

コールサイン検索範囲 プリフィックス検索範囲

②4 簡易ヘルプ表示 (F T 8 画面の活用)

[目次へ移動](#)

← このように J T D X 等と横並びでカラー設定と合わせて検索等が楽になります。

右のカラー設定の参考を ⇒ 次ページに添付しておきます。

この部分にマウスを当てると表示されます。

DX 画面ヘルプ (左から) サンプル例

*- CQ FK8GX RG28 -R L FK 2回★:14. JT65<GL>:

取込時間 周波数
Time = 45 : 00 Freq = 14.

M : 自局のコールサイン表示 (最左列優先No1)
* : メイン画面コールサイン欄記載局 (最左列優先No2)
レ : [局 or 登録方法] 登録 (最左列優先No3)
\$: 年間ニューでバンド未交信局 (2列目)

本文 : CQ FK8GX RG28 : Message = UDP取込内容

(2行外左側) = オールバンドでの年間QSO
- : 年間QSO状況 (スペース=全New, = =バンド=ニュー, Q=バンドQso)
(2行外右側) = F T 8 のみでの年間QSO
R : F T 8 でのQSO、Freq、Mode別DXCC: =Qso, R=Received, Space=New

L : LOTW登録局(オプション表示)
※ [- R L]不一致の場合は「年間」* タンククリックでリフレッシュ

FK : カントリー表示、Option (Prefix, Entity, 非表示)

過去交信状況等 (Option)
回 = 過去単純QSO回数
★ = FT8デビュー (Freq, mode)
● = All DXCCリスト New (Freq, Mode)
交信内訳 = Freq, Mode<QSLT, QSLR>

表示コールサインクリック

==== Time = 48 : 00 ===== Freq = 14. =====

AJ1L R4IK -14	QR UA1	1回★:14. FT8 <TL>
BG4KKF JA2INL 73	QR L JA	
BG2DVL JE1RMI PM95	QR L JA	
A45XR JQ1NUT -16	QR L JA	
CQ VK4MOT QG62	QR VK	
K2C RW0SR 0022	QR UA0	
* YB7WW HL2IDT 73	QR HL	
レ CQ 4S6NCH MJ96	- L 4S	4回★:50. FT8 <L>:
CQ RA0LI M027	QR UA0	

左側：検索中の局表示時に表示 (優先順位は上位の位置)
M：自局の名前が表示されると表示します。
*：メイン画面のコールサインが表示
レ：「PRE、局 抽出」欄に記入された局名orプリフィックスが表示
右側：
\$：モードにかかわらずそのバンドで年間ニューを表示 (※下記のQ R欄を参照)

LOTWチェック レ=実施(★注意:CPUへの負荷大★) □=未実施
 エンティティ等表示 レ=非表示 □=する
 表示内容 レ=エンティティ □=プリフィックス

F T オプション画面内で設定



← タイムライン：「分：秒」、「BGALOGのワーク欄周波数 (Mhz)」

左側：Q：今年この周波数のいずれかのモードで交信済 (スペース=未更新、-：他のバンドで交信済)
右側：R：今年F T 8でこの周波数で交信済 (スペース=未更新)

*：メイン画面のコールサイン欄の局
レ：PRE、局 抽出= 4S 欄に表示の局名 (orプリフィックス)、登録方法：[Ctrl]+表示局名 (orプリフィックス) タンク (局名の場合は行内のすべての場所、プリフィックスの場合はプリフィックスの位置から検索)



②5 J T D X のカラー設定 (参考)

B G A L O G と横並びで表示して
楽しんでいます。

このページを好みに応じて設定してくだ
さい。

設定

全般 Radio オーディオ 順序 Tx マクロ レポートング 周波数 通知・色付け フィルタ スケジューラ 高度設定

『新しいもの』、および『既に交信している』というステータスの通知

新しいCQ Zoneをチェックして強調表示する バンド毎 モード毎 更にピーツという音を出す
 新しいITU Zoneをチェックして強調表示する バンド毎 モード毎 更にピーツという音を出す
 ニューDXCCをチェックしてハイライトを付ける バンド毎 モード毎 更にピーツという音を出す
 新規グリッドをチェックしてハイライトを付ける バンド毎 モード毎 更にピーツという音を出す
 新規プリフィックスをチェックしてハイライトを付ける バンド毎 モード毎 更にピーツという音を出す
 未交信局をチェックしてハイライトを付ける バンド毎 モード毎 更にピーツという音を出す
 交信済局を強調する strike it 下線を引く 表示しない
 逆のテキスト/背景色
 他の標準のメッセージを強調

自局コールサインにピー音 最初のデコードにピー音

マーカー 他の標準のメッセージ 赤/自局のコールサイン 青色/QSO中の自局のコールサイン

構成のヒント.

送られたメッセージ	K1ABC	メッセージのCQ / 73	メッセージの中に私のコールサイン	他の標準のメッセージ
RR73/73	<input checked="" type="checkbox"/>	K1ABC	K1ABC	
新しいCQ Zone	K1ABC	K1ABC	K1ABC	
バンド/モード毎のNew CQ Zone	K1ABC	K1ABC	K1ABC	
新しいITU Zone	K1ABC	K1ABC	K1ABC	
バンド/モード毎のNew ITU Zone	K1ABC	K1ABC	K1ABC	
新しいDXCC	K1ABC	K1ABC	K1ABC	
バンド/モード毎のNew DXCC	K1ABC	K1ABC	K1ABC	
新しいグリッド				
バンド/モード毎のNewグリッド				
新しいプリフィックス	K1ABC	K1ABC	K1ABC	
バンド/モード毎のNewプリフィックス	K1ABC	K1ABC	K1ABC	
新しいコールサイン	K1ABC	K1ABC	K1ABC	
バンド/モード毎のNewコールサイン	K1ABC	K1ABC	K1ABC	
交信済	K1ABC	K1ABC	K1ABC	

26 過去の交信状況等 FT画面説明

LOTW情報
(オプショナル情報)
(オプション)
プリフィックス
プリフィックス

表示周波数 & ポジション
==*== 左から160m ⇒ 6m

: 未交信

F モードの先頭文字
(C: CW、S: SSB、R: RTTY、F: FT8等)

文字・ボタン等でヘルプ
マウス通過でヘルプ表示

(交信回数) カッコ内

-D-
デュープ

バンド等ニュー (例: 6mのバンドニュー)

==* (アスタリスクの位置)
バンドごとの交信周波数
(最終交信モード)
左から160m~6m、

144MHz~
(枠外表示)

交信周波数

DX FT画面

ヘルプ表示 前面表示 全列ア 抽出 交信済非表示 マニュアル

==== Time = 52 : 45 ===== Frq = 14. =====*

* CQ JI1HSV PM95	QR L JA (0)	:	:	:
CQ BH4XTE PM01	QR L BY (0)	:	:	:
YC1EIS JA1EPJ -08	QR L JA (0)	:	:	:
YC1EIS UA9HO N026	QR UA0 (1)	-D-	F	:
YB2CAA JH1AQG PM95	QR L JA (0)	:	:	:
YB7UE JH1TDG PM95	QR L JA (0)	:	:	:
0 (3)	F	:	F	:
(0)	:	:	:	:
(0)	:	:	:	:
(0)	:	:	:	:
0 (0)	:	:	:	:
0 (0)	:	:	:	:
0 (1)	-D-	F	:	:
Frq = 14.	====*	====	====	====
(3)	FF	F	:	:
(0)	:	:	:	:
(1)	-D-	F	:	:
(1)	F	:	:	:
(4)	-D-	FFFF	:	:
AF5NZ UA3TCJ L016	QR L UA1 (2)	C S	:	:
JA1BZF JA6UMJ -26	QR JA (0)	:	:	:
YE1KK R4UV -10	QR L UA1 (0)	:	:	:
F	:	:	:	:

DX FT画面

ヘルプ表示 前面表示 全列ア 抽出 交信済非表示 マニュアル

画面ヘルプ (左から)
サンプル例
* CQ FK8GX RG28 -R L FK (2)-D-:14. JT65<GL>:
==== 取込時間 周波数
Time = 45 : 00 Frq = 14. =====
M : 自局のコールサイン表示 (最左列優先No1)

==== Time = 07 : 00 ===== Frq = 50 =====*

CO8LY JQ1TIV -08	QR JA (0)	:	:	:
JA1WSX CO8LY -12	-R CO (22)	6m	FFCFPR	:

==== Time = 07 : 30 ===== Frq = 50 =====*

- C : クラブログ登録局
- P : ペディション登録局
- W : ウォンテット登録局
- < : ウォンテット登録局が呼ばれている
- # : ウォンテットカントリー登録局
- M : 自局のコールサイン表示
- * : メイン画面コールサイン欄記載局
- レ : [局 or 登録プリフィックス] 登録
- \$: 年間ニューでバンド未交信局
- L : LOTW登録局(オプション表示)

(2n* 付左側) = オールバンドでの年間QSO
 - : [ス*ス]=全New、[-]=バンドニュー、[Q]=バンドQso
 (2n* 付右側) = FT8 MIXでの年間QSO
 R : FT8でのQSO、Frq, Mode別DXCC: T=Qso, R=Received, Space=New

②7 F T 画面表示上の注意事項

表示場所の制限から次の様に設定しています。

メイン画面とプリフィックスの優先順位
メイン画面での選択が優先されます。

デュープとニュー

その局とのバンドモードの交信内容を優先し [-D-] とします。

交信回数と表示

(回数) はすべての更新回数を示し、同一周波数で重複した場合は、初回の [C] は非表示となり、最終更新のモードが表示されます。

Q・R表示 (年間QSO)

左側 : Q・—・sp°-s : DXCC

- sp°-s そのカントリーとは当該年未交信
- そのバンド未交信他のバンドで交信済
- Q そのバンドで交信済

右側 : R・sp°-s : FTモードでの年間M I X更新状況

- sp°-s そのカントリーとは当該年未交信
- R FT (8-4) で交信済



↓	W3DDF	8N2ULP	-13	QR	JA	(1)	:	F
*	K4HNT	JA7HRF	R-18	QR	JA	(0)	:	:
	JA6VWM	YC1INQ	73	QR	YB	(1)	:	F
↓	N4BP	7N4XTA	-12	QR	JA	(0)	:	:
	CO	RC8CAM	0L30	QR	RV	(0)	:	:

DL8RBL R9YQ RR73 QR UA0 (2)-D- F

CQ	YB4BHA	0I18		QR	YB	(0)	:	:
VU2GH0	VR2XYL	R-12		-R	VR	(4)-D-	F	FF F
CQ	BG7PHA	0L72		QR	BY	(3)	F	:FF

FTデコード取込画面 - 1

★ 説明を表示

ヘルプ表示にマウスを合わせる
その他は各ボタン等にマウスを合わせる

★ 先頭の検索状況記号の意味

記号 左から4バイト

(4バイト超えの場合は4バイトまで表示)

- C : クラブログ登録局 (自動表示)
- P : ペディション登録局 (自動表示)
- W : ウォンテット登録局
- < : ウォンテット登録局が呼ばれている
- # : ウォンテットカントリー登録局
- M : 自局のコールサイン表示
- * : メイン画面コールサイン欄記載局
- レ : [局 or 登録フリックス] 登録
- \$: 年間ニューでバンド未交信局
- L : LOTW登録局 (オプション表示)

★ 最前面に表示

前面 にチェックを入れると最前面に表示

★ 表示内容の消去

をクリック

取込済のFT8表示データを削除
・MSG、TXTに削除前の内容を書き込みます。

検索状況記号	本文メッセージ	年間のOSO (Qは交信済)	DXCC (穴埋め状況)	DXCCカントリー	過去の交信回数	デュープDXCCニュー状況	バンド別交信モード	バンド別最終交信状況
	JE2CGR HS2KYA 73	QR HS (1)	F					
	BG6QEW PY7RP R-19	QR PY (0)						
	VK4JAO BG7QBS 0L53	QR BY (0)						
*	FK8HA RA0SAT -03	QR UA0 (0)						
	CQ RA0Z1J 0002	QR UA0 (0)						
*	FK8HA RV7B/9	QR UA1 (0)						
==== Time = 12 : 30 ===== Frq = 28.074 =====*								
	UN1L JE1WAF 73	QR JA (1)	F					
	UN1L JA1LZB PM95	QR JA (4)-D-	FF	FF				
*	RA0SAT FK8HA R+00	QR FK (0)						
	HS4QKN JA1CUF PM95	QR JA (0)						
	RY2ANV R0000M 12	QR BY (0)						

ヘルプ表示

前面 クリア- 検索局非表示

画面ヘルプ (左から)

----- サンプル例 -----
 CQ FK8GX RG28 -R FK (2)-D-:14, JT65<GL>:
 記号 メッセージ 年間 PRG (回)DXCC|バンド^QSO

----- 取込時間 周波数 -----
 ===== Time = 45 : 00 ===== Frq = 14. =====

記号 左から4バイト (4バイト超えの場合は4バイトまで表示)

C : クラブログ登録局
 P : ペディション登録局
 W : ウォンテット登録局
 < : ウォンテット登録局が呼ばれている
 # : ウォンテットカントリー登録局
 M : 自局のコールサイン表示
 * : メイン画面コールサイン欄記載局
 レ : [局 or 登録フリックス] 登録
 \$: 年間ニューでバンド未交信局
 L : LOTW登録局 (オプション表示)

本文 : CQ FK8GX RG28 : Message = UDP取込内容

(2) 左側 = オールバンドでの年間QSO
 - : [スペース]=全New, [-]=バンドニュー、[Q]=バンドQso
 (2) 右側 = FT8 M I Xでの年間QSO
 R : FT8でのQSO、Frq, Mode別DXCC:T=Qso, R=Received, Space=New

FK : カントリー表示、Option (Prefix, Entity, 非表示)

過去交信状況等 (Option)
 (2) = 過去単純QSO回数
 -D- = FT8 & 同一周波数でのデュープ
 -\$- = ALL DXCCリスト New (Frq, Mode)
 交信内訳 = Frq, Mode<QLT, QSLR>

表示コールサイン等クリック
 コールを [クリック] : [コールサイン] をメインの [局] 欄へ取込+検索
 コール、Preを [Ctrl] + [クリック] : 同 [pre, 局] 欄へ取込のみ
 GL番号を [クリック] : GL番号取込&同一GL (4桁) で検索

FTデコード取込画面 - 2

★ 複数のウォンテット局を登録し表示の都度確認する
半角のスペース区切りで登録

★ 珍カントリーや集中的に交信したいカントリーを表示
半角のスペース区切りでDXCCリストのカントリーを登録

★ 簡単「登録・削除」
メインの「コールサイン」[A][D]「プリフィックス」を登録
登録：Aボタン
削除：Dボタン

★ メインの検索局の「表示・削除」
メインのコールサイン検索局を表示
その局が見えると記号欄に「*」で表示
コールサイン状態をクリックすると削除

★ マニュアル表示

FT「4・8」マニュアルを表示

★ RR73検索 (J T D X の [YYYYMM_ALL.TXT] からの検索)



↑表示件数を50件までとします。

RR73等の記載の有る行を検索します。



現在の [ウォンテット プリフィックス] には次が登録されています。
ここをクリックで直接 [登録・修正・削除] が出来ます。
XW4KV *****
修正後は [環境登録] ボタンで登録してください。
(MAX登録容量) : 250 バイト

現在の [ウォンテット プリフィックス] には次が登録されています。
ここをクリックで直接 [登録・修正・削除] が出来ます。
3YB 7X C31 CY0 CY9 FR/J HH P5 P5 PY0T SV/A VP8H VP9 YV0 ZS8 Z6 XW K VK
修正後は [環境登録] ボタンで登録してください。
(MAX登録容量) : 250 バイト

```
* H44SHD UA9UX -06
* H44SHD JA1FJJ +02
```

	CQ	VK5UW	PF94	QR	VK	(0)	
		VR25XMT	UN9FF	M071	-R	UN (0)	
<		XW4KV	JR6YAA	PL36	QR	JA (0)	
		CQ	R9SS	L071	QR	UA0 (0)	
		CQ	DS1JFY	PM37	QR	HL (0)	
		JL1ELQ	AP22Y0TA	-20	-R	AP (0)	
		CQ	BG4UCZ	PM02	QR	BY (0)	
W#		CQ	RA3CQ	K085	Q	(0)	
		CQ	US	PY2ANY	GG66	QR	PY (0)
		CQ	HS2KYA	OK12	QR	HS (1)	
		4J7WMF	JR2UBS	R-19	QR	JA (0)	
		CQ	VK5COL	PF84	QR	VK (1)-D-	
		CQ	R0MQ	PN64	QR	UA0 (0)	
		BG5VEC	JJ1GLK	-01	QR	JA (2)	
\$		JA3QLG	FR5CB	73	FR	(2)	
		DV7A	JG1IMP	73	QR	JA (0)	
		RZ6L	R90BJ	R-20	QR	UA0 (0)	

次ページへ続く

★ RR73検索 (J T D X の [YYYYMM_ALL.TXT] からの検索)

使用するには J T D X 等の A L L , T X T へのレコーディングを次の様にいずれかを選択しておく必要が有ります。

レコーディング 周波数 通知・色付け フィルタ スケジューラ 高度設定

記録されたQSO ADIFデータを送る

レポートおよびログ設定 27.0.0.1

TCPポート : 52001

TCPサーバーへの送信を有効にする

ALL.TXTへのレコーディング

デコードしたメッセージ

デコード済とデバッグメッセージ

何れかにチェックを入れる必要が有ります。

結果の例 (R R 7 3 のみを抽出します。)

Call Sign	Other	Call Sign	Other	Call Sign	Other	Call Sign	Other
20240529	125845	-6	0.2	2498	-	HS5LVO	AA5R R-24
20240529	125815	-8	0.4	1648	-	JJ1GLK	E25GGT R-06
20240529	125815	-7	0.0	1717	-	JJ1GLK	BV400 R-02
20240529	125815	-4	0.3	2620	-	HS5LVO	AA5R R-24
20240529	125815	-2	0.3	1265	-	<...>	BH8VRO R-09
20240529	125815	-14	0.5	669	-	IR7EAR	PI1ANE RR73

検索するフォルダーは より次の場所へ登録しておく必要が有ります。←

検索対象場所 = ←